

学んだすべてが生きている



徳永里砂さん。「お互いに
対する寛容さもイスラーム
社会の特徴の一つです」

大学院時代にはドイツ語
とアラビア語にも手を広
げ、さらにカイロ大学(エ
ジプト)に留学した。

中高での英語の勉強が
役に立ったと振り返る。

「本当に『詰め込まれた』
という感じで大変でした
が、ものすごく生きてい
ます。英語を媒介に新し
い言語を学べました」

ムスリム(イスラーム
教徒)とふれあう中で、
「リラクセスできて自然
の姿でいられる」ことに
気づいた。イスラームは

単なる宗教ではなく、社
会規範だという。「二番
重要なのは『中庸』。仕

事も礼拝もやりすぎない
こと。誰かが犠牲になる
のではないバランスのい

い生活を、イスラームで
は勧めています」

スペイン語通訳の山田
初さん(38、1997年
卒)が、南米のボリビア

に関心を持ったのは9歳
の時。チチカカ湖の島に
住む子どもの本を読み、

「この人たちと暮らした

い」とあこがれた。

とはいえ最初から語学
に打ち込んだわけではない。中学時代は英語は赤
点。高1の夏休みにオー
ストラリアでホームステ
イしてから頑張るようにな
った。日本史の授業も
好きで、マイノリティー
(社会的少数者)に対し
ての意識を高めた。

早稲田大学に進学後
は、長期休みのたびに海
外へ一人旅に出た。就職
したりクルートで旅行雑
誌の企画営業として働い
た後、大学院へ。休みごと
にペルーへ通った。

中南米の何が魅力なの
か。「とにかく陽気で親
切。中でも、明るさの中
に影と落ち着きが入った
先住民族が多いペルーや
ボリビアは、自分にはち
ょうどよく感じます」

大学院での研究テーマ
は、出稼ぎの日系人の子
どもに対する学習支援。

日本語習得のフォローが
十分でなく、放置されて
いることが多いという。

「2言語できる子は日本
にとっても財産になるの
に、すごく残念です」

現在は日本へ研修に来
る日系人の通訳のかたわ
ら、難民支援に携わる。

「振り返ってみれば、す
べて役立っています。英
語も日本史も部活も。取
り組んだことは、何かに
つながっていくと思いま
す」



山田初さん。中高時代は演劇部。人前であがらず、
何でも手作りするのは部活の影響だといふ